

私が一歳の時

戸山 恵子

(会員 佐伯市匠南区)

一九五六年(昭和31年)の地図が出てきました。市内の某公民館を建て直す時、倉庫からボロボロのゼンリンの地図(住宅案内図)が見つかり、友人がコピーしたのを譲ってもらったのです。

丁度、祖母の50回忌があるので、その日にまにあうように、きれいに製本し、大きさも半分にし、ゼンリンの許可を得た上で、親族の皆さんに渡しました。まだまだ元気な?叔父・叔母たちは大喜び。お坊さんの話もそっちのけで、○○はどこにある?昔は○○に○○があった。と、ワイワイガヤガヤにぎやかな法要になってしまい、これにはあちらの世界の祖母もびっくりしたことでしょう。亡き祖母そして父や叔母たちが生活していた場所は船頭町。それに向島や西谷でした。遊んだエリアは城

山を含む旧市内全域のようで、〃おんばらい〃見立て細工〃お浜御殿〃等々の話がとび交いました。会食の会場を「ニュー佐伯」に選んだのも、住吉神社と楠の大木は昔のままだからと、それだけの理由でした。

父たちの話に必ず登場する〃池船橋〃は、当時はこの橋を通って蒲江・青山方面へ路線バスが往復していたこと、屋根ストレスレの妙技に、ハラハラドキドキして運転手のハンドルさばきを見ていたのを覚えています。橋の下でニイナやアオサを取った記憶のあるのは、私たちが最後の年代になるでしょうか…。

文化会館はまだなくて、当時の文化の中心地は「明治座」でした。戸山の義父の生家は、その近くにある〃野口家〃。義父の姉が嫁に行った〃原家〃も近くにありました。夫は、小さい時から花火は池船のこちらの家から見たといいます。(地図①)

地図をブレゼントしたその夜、義父はこっさり笑って教えてくれました。明治座の裏木戸にある小さな出入口に通じる路地がココ、そこを抜けて無料見^たみをしてたんや…と。その夜は夜中の1時まで見入っていた義父。旧市街地で池船ほど変化した所はないんじゃないでしょうか。

第一、私が毎日2回は往復している「佐伯大橋」も「住吉橋」も影も形もないのですから。

地図を見て改めて思うのは、市内の中心的役割の建物が大手前を囲むように集まっていたこと。市役所を中心に、裁判所、検察庁、農協、土木事務所建設協会、そして警察署があります。大手前公園にはタヌキヤサル、キジといったミニ動物園がありました。(地図②)

官公庁は一ヶ所に集中している方が何かと便利だったよな一ツと今更ながら思われます。現在の市役所のある位置はすつぽり豊南高等学校。裏門からの道路沿いは材木がゴロゴロ並び、子ども達の絶好の遊び場となっていました。

西部林産、古川製材、薩摩木材、成迫製材、山上木材、下村製材、内田製材所、正田材木店、吉田製材所、染矢材木店、汐月林業、安部製材所、柳川材木店、鍵野製材、桧垣製材、肥川製材、と北からざっとこんなにも材木店が並んでいます。(地図③)

もう一つ、目につくものが「銭湯」。今ではほとんどみかけなくなりました。港湯・若湯・ダルマ湯・トキワ湯・桜湯・寿湯・あづま湯・大和湯・日の出湯とこんな

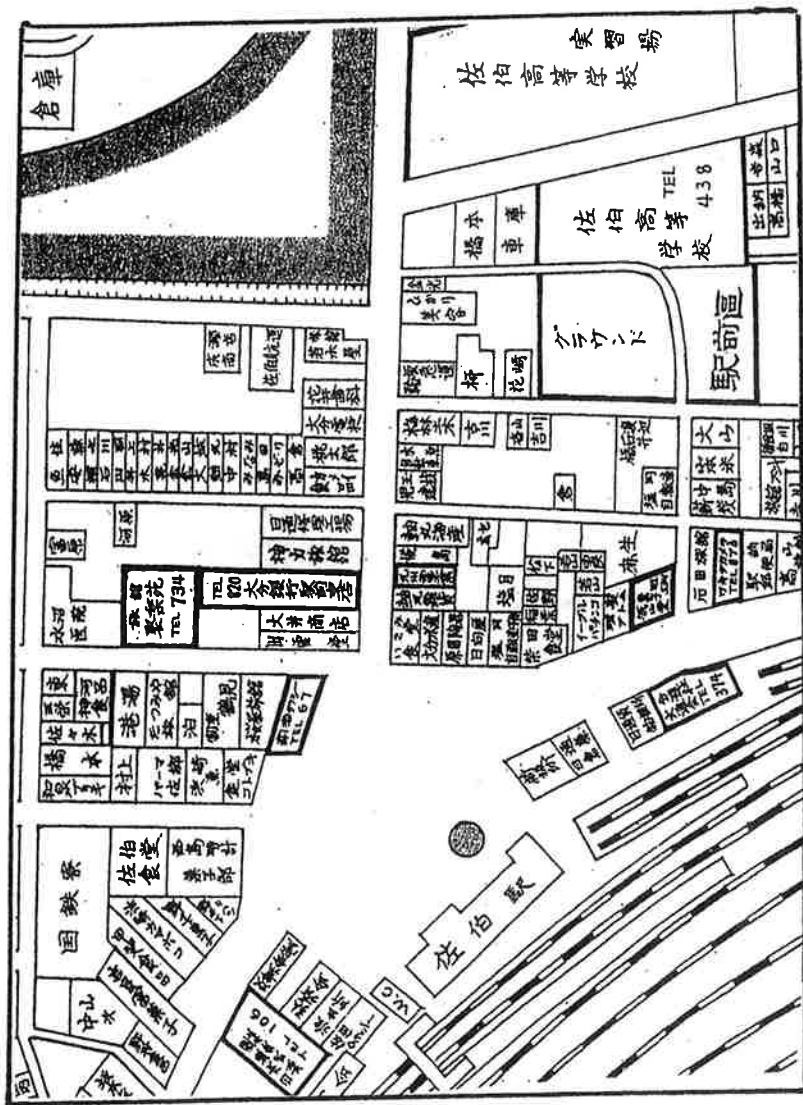
にもありました。城東区にあった寿湯、この娘さんと私は同級生、たしか中学の頃までは営業してた気がします。

目を転じて駅前方面。まん中に鶴の噴水があつたまあい池がはつきり描かれていました。駅前広場には輪タク、バス、トラックが並び、人々がひしめきあつて降りする姿がバァーとうかんできました。父が国鉄に勤務していたので、よく覚えていのです。南海タクシー、西島時計店、寿食堂、出雲堂、日向屋、大分銀行と今もそのままの場所で営業しているトコもあります。(地図④)

大手前・駅前の両広場は地形は同じでも50年後のなんと淋しくなったことか。近年、佐伯市中心街の空洞化が進み、大手前寿屋跡地の再開発構想が進んでいます。私も佐伯史談二〇五号で会員の佐藤巧氏の提案には大賛成です。古い物を失くしすぎた佐伯市民の私たち、だから今ある物を生かしつつ、次の世代へとバトンタッチしなくてはいけない気がします。

50年前の地図からは、水を大切にし、水と共に生活していた私たちの親世代の活力が伝わってくるようです。

地図④



佐伯市住宅案内図

(旧市内の部)



昭和 31年改訂版

(2月1日 - 3月31日調)

株式会社 善隣出版社 佐伯支局 発行

※製本した地図は少し残りがあ
ります。

大きさはA3。

ご連絡下されば印刷代+送料
でお分けします。

TEL 24-0840

戸山恵子